

茶の里にぎやかに

お慰めを披露する高校生たち

お点前を披露する高校生たち

コロナ禍明けの2022年から1日のみの開催となり、来場客数は4年連続の約3000人（実行委員会発表）だった。

と、丹波篠山茶生産組合
の組合長と諏訪園
の社長がそれぞれ

若い葉を選んで次々と摘みだした。初めて茶摘みをした。さんは「摘み性は」とてもしっかりと

持った関係者が行列を
つくり、茶の里会館前を
出発。ゆくりとした足
取りで、大国寺に到着する
2年)は「緊張したけれ
れ新茶を入れた茶づぼを
行列に参加し
て楽しかったと話した
茶の里会館では茶摘
体験に

市	さん(44)	出身は「初めての 点前で緊張している」と
市	さん(2年、丹南	

丹波新聞

し。の世話していた。
摘んだ茶葉を蒸し、加
温した台「ほいろ」の上
で手もみし、乾燥させた
茶葉を持ち帰ることがで
きる体験にもたくさん
の人が参加。

さん(50)「小中では「昨
年はもみが甘かったのか
乾燥まで時間がかかった
。今年はしつかりもみ
たい」と、組合長に
アドバイスを聞きなが
ら、懸命に茶葉をもみ込
んでいた。

新茶や加工品、農産物などを販売する「ふれあい物産市」にもぎわいをみせた。同生産組合の新茶すくい取りには行列ができ、茶の香りが漂っていた。毎年、すくっているという　さん

（味間興）は「毎年、新茶を飲むのが楽しみ」と笑顔だった。